

JSDA 会報

2016年・初夏号



contents

特集

2-8

通常総会開催される

懇親会、協会表彰

H28年度事業計画

常設委員会活動テーマ

特別寄稿

9

少子高齢化社会に建築ができること

株式会社 INA 新建築研究所

専務取締役 設計監理本部長 粕谷 勝美氏

ズーム UP

10-11

「防火設備検査員に関する講習

実技講習」全国で開催！

Spotlight

12-13

シャッターの使用状況調査 2015

新会員紹介

14

第2種会員14社、賛助会員1社



通常総会開催される

さる5月24日(火)午後、東京都千代田区のグランドアーク半蔵門において、日本シャッター・ドア協会の平成28年度通常総会、定例理事会が開催された。続いて、協会表彰が行われた後、夕刻より懇親会が開催された。



平成28年度通常総会 / 定例理事会

15時より、グランドアーク半蔵門において、第一種会員および監事出席のもと「平成28年度通常総会」が開催された。通常総会では、岩部会長が議長を務め、報告事項として平成27年度事業報告が承認された後、決議事項として第1号議案「平成27年度決算承認の件」が諮られ、原案どおり承認された。続いて第2号議案「役員(理事・監事)選任の件」、第3号議案「定款改定承認の件」、第4号議案「新会費承認の件」が諮られ、それぞれ原案の通り承認された。次にその他報告事項に移り、平成28年度事業計画及び平成28年度収支予算、防火設備の検査報告制度、技能検定制度、平成28年度協会表彰、会員の状況等について報告された。

総会后、同会場において平成28年度協会表彰に移り、優秀工事従業者表彰6名、協会委員表彰4名の表彰が行われた(5ページに掲載)。

また、総会后、第12回定例理事会が開催され、会長、副会長、専務理事、常任理事が選任された。

平成28年度事業計画では、平成26年の建築基準法の改正に伴い、昨年度はこれに関連した政令、省令が制定され、本年6月より防火設備に関する検査制度が施行される。防火設備の検査資格者に関しては、講習制度の一環として位置づけられた実技講習について、当協会が受託事業として本年3月より実施している。引き続き今年度も、この制度が的確かつ円滑に実施されるよう協会をあげて協力していくことが盛り込まれた。

また、近年、ゲリラ豪雨が増加している中、防災事業の一環として浸水防止用設備の普及に関して検討を進めてきた。今年度は、浸水防止用設備に関する基準を検討し、さらなる普及に向けた事業を展開する。

この他、シャッター・ドアの施工者を対象に技能検定制度の導入を目指し、取り組みを進めることとしている。

なお、平成28年度事業計画は6ページ及び7ページに掲載する。

会長・新任役員

■木下和彦新会長



木下 和彦 会長
三和シャッター工業株式会社
代表取締役副会長

■通常総会で選任された新任役員



潮崎 敏彦 副会長
文化シャッター株式会社
代表取締役社長



山田 智 常任理事
株式会社 LIXIL 鈴木シャッター
代表取締役社長執行役員



本多 直巳 監事
一般社団法人リビングアメニティ協会
専務理事

定例記者会見を開催

17 時より、日刊紙、専門紙約 20 社の記者を集めて定例記者会見を開催した。

会見には木下会長、潮崎副会長、沖村専務理事、後藤常任理事が出席し、冒頭、木下会長より新たに会長に選任されたことと新役員の紹介が行われた。また、岩部前会長が長年にわたり業界の発展に尽力されてきたことに敬意を表するとともに、今後は全役員とともに社会的な使命を全うし、さらなる業界の発展に尽くす旨挨拶された。続いて、平成 27 年度の重量シャッター、軽量シャッター生産量ともに前年度より伸びており、特に重量シャッターは大型物流施設の建設が好調だったことを背景に挙げ、3 年連続で 100 万㎡を維持していることに言及した。続いて沖村専務理事より平成 28 年度事業計画について説明が行われ、質疑応答を経て会見を終了した。



▲記者会見の様子

平成28年度 通常総会 懇親会が開催される

18時から、多くの来賓と会員ら約210名が出席して、通常総会懇親会が開催された。まずはじめに、司会の長嶋事務局長より会長に木下前副会長が就任したことが報告され、木下会長よりご参集頂いた方々への挨拶と、役付役員及び新任役員の紹介の他、業界の動向について報告が行われた。また、理事ならびに会長として当協会の発展に大きく貢献し、数多くの功績を残されたとして岩部前会長に感謝状及び記念品が授与された。これを受け、新たに顧問に就任した岩部前会長より出席者に対し謝辞が述べられた。

続いて、政務多忙のなか駆けつけて頂いた太田昭宏・前国土交通大臣、田中和徳・自由民主党国際局長、平将明・前内閣府副大臣、秋本真利・自由民主党国土交通委員会理事をはじめ、由木文彦・国土交通省住宅局長よりご挨拶を頂いた。さらに、菅義偉内閣官房長官の祝電が披露された後、潮崎副会長の乾杯の発声で歓談に移った。歓談中は終始和やかな雰囲気の中、後藤常任理事による中締めの挨拶により、懇親会はお開きとなった。



懇親会の様子



挨拶する木下会長



岩部前会長に感謝状及び記念品が授与された



太田昭宏・前国土交通大臣



田中和徳・自由民主党国際局長



平 将明・前内閣府副大臣



秋本真利・自由民主党国土交通委員会理事



由木文彦・国土交通省住宅局長

平成 28 年度協会表彰

本年度は、優秀工事従事者協会表彰として 6 名、協会委員表彰として 4 名の方が表彰された。

■優秀工事従業者協会表彰

- 梶原 栄一氏 ケイ・エスエス技建 (株)
(推薦:三和シャッター工業 (株))
- 滝口 靖明氏 (株) ユニテックドア
(推薦:三和シャッター工業 (株))
- 薦 英雄氏 薦工業
(推薦:文化シャッター (株))
- 菊池 勝則氏 菊池工業
(東洋シャッター (株))
- 田畑 浩二氏 田畑工業
((株) LIXIL 鈴木シャッター)
- 酒井 勝弘氏 三田工業 (株)
(三田工業 (株))



梶原 栄一 氏



滝口 靖明 氏



薦 英雄 氏



菊池 勝則 氏



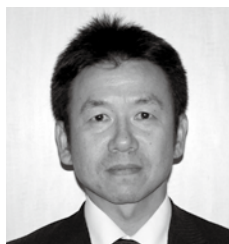
田畑 浩二 氏



酒井 勝弘 氏

■協会委員表彰

- 廣島 光彰 ドア技術委員会
文化シャッター (株)
- 宮崎 信泰 OHD 技術委員会
金剛産業 (株)
- 黒川 貴光 ドア技術委員会、
浸水防止用設備委員会
田中サッシュ工業 (株)
- 北川 孝夫 メンテナンス委員会
文化シャッターサービス (株)



廣島 光彰 氏



宮崎 信泰 氏



黒川 貴光 氏



北川 孝夫 氏



優秀工事従業者として表彰された皆さん



協会委員として表彰された皆さん

平成 28 年度 事業計画

はじめに

シャッター及びドアは、建築物において防犯等の管理機能や防火等の防災機能といった重要な役割を担っている。

当協会は昭和 39 年に社団法人日本シャッター工業会として設立して以来、シャッター及びドアの性能向上や普及を通じて、より安全で安心できる社会の形成に貢献するよう努めてきた。

当協会会員が供給してきたシャッター及びドアのストックは既に膨大なものとなっており、新たな供給への対応と併せて、ストック対策が極めて重要となっている。

シャッター及びドアは、的確な保守・点検により期待された機能が確保されるものであり、保守・点検が必須である。このため、当協会では、平成 18 年度に点検法制化推進本部を設け、以来、シャッター及びドアの点検制度について検討・提案を行ってきたところであるが、ようやく平成 26 年には建築基準法が改正され、昨年度はこれに関連した政令、省令が制定され、本年 6 月より防火設備に関する検査制度が実施されることになった。

防火設備の検査資格者については、法の施行に先立って一般財団法人日本建築防災協会において事前講習が行われ、講習制度の一環として位置づけられた実技講習については当協会が同協会より委託を受けて本年 3 月より実施している。

当協会がかねてより提案してきたシャッター・ドアの点検が、防火設備については検査制度として実現されることとなったわけであり、当協会としては、この制度が的確かつ円滑に実施されるよう、協会をあげて協力するべく種々の対策を講ずることとする。

近年、異常気象によるゲリラ豪雨が増加しているが、協会では、防災事業の一環として浸水防止用設備の普及が重要であると認識し、協会の事業として検討を進めてきた。今年度は、引き続き浸水防止用設備に関する基準を検討し、その普及に向けた事業を展開する。

当協会の会員を取り巻く状況については、政府による経済対策や日銀の金融緩和策等により景気は回復基調にあるものの、世界経済の観点からは懸念材料も存すると言われている中、各企業の業績はおおむね好調に推移していると思われる。

このような社会経済情勢の下、本年度も、会員相互の協力により設立の目的に掲げる各種の事業を推進するとともに、法令遵守に対する意識を高め、より一層社会に貢献したいと考えている。

第一章 定常的事業

1 調査研究普及事業

シャッター、ドア及び防火設備に関する調査研究、技術基準等の策定、製品安全への取り組み、維持管理における安全対策の推進等を行う。

(1) 調査研究

- ・シャッター及びドアの防錆塗料に関する研究を行う。
- ・その他、環境負荷の低減化対策について検討する。

(2) 技術基準等の策定

- ・技術基準の策定、改定を進める。

技術基準の策定

軽量シャッター技術標準、鋼製ドア技術標準及び浸水防止用設備技術標準

技術基準の改定

重量シャッター技術標準、耐火クロススクリーン技術標準、高速シートシャッター技術標準、グリルシャッター技術標準、オーバーヘッドドア技術標準及び窓シャッター技術標準

- ・技術基準の構成要素である施工基準及び点検基準の策定、改定を進める。
- ・技術基準等の策定に関する調整を行う。
各技術委員会の情報の共有化を図るとともに、技術基準等の標準化について検討する。

(3) 製品安全への取り組み

- ・事故情報の分析及びそれを踏まえた基準作りを行う。
- ・安全対策検討委員会を開催し、シャッター・ドアの安全対策について検討を行う。
- ・製品安全に関するガイドラインの策定等を行う。
高頻度シャッターの設置及び維持管理に関するガイドラインの策定
高速シートシャッターの安全に関するガイドラインの策定
シャッター・オーバーヘッドドア用リモコンスイッチの誤操作等による事故防止に関するガイドラインの策定
- ・耐火クロススクリーンの設置に関する自主管理を行う。
- ・施工専門技術者資格制度を推進する。

- ・協会のホームページを活用して安全普及を推進する。
- ・シャッター施工について技能検定制度の導入に取り組む。

(4) 維持管理における安全対策の推進

- ・製品安全普及事業の一環として、建物管理者やユーザー向けの各種ツールを作成し、定期的な保守点検の必要性を訴え、点検が幅広く推進されるよう活動する。
- ・シャッター・ドア保守点検専門技術者資格制度を推進する。
- ・危害防止機構や障害物感知装置が未設置のシャッターの解消を図るための取り組みを進める。

(5) 資料収集・普及事業

- ・シャッター・ドアの市場及び用途に関する調査を行う
- ・労働災害発生状況の調査を行う。
- ・防犯製品に関する情報提供を行う。
- ・浸水防止用設備の普及促進に係る取り組みを進める。
- ・会報・ホームページによる情報の提供を行う。
- ・優秀工事従業者表彰を実施するとともに、優秀施工者の国土交通大臣顕彰及び土地・建設産業局長顕彰に關し推薦を行う。
- ・社会保険未加入対策を進める。
- ・ドア事業の推進に関し、新たな展開を図るための検討を進める。
- ・スチールドアの契約適正化に関する研修会を行う。

2 評定登録講習事業

所定の性能を有するシャッター及びドアに関する認定、登録、並びにシャッター、ドア及び防火設備の施工及び点検に関する人材育成を行う。

(1) 所定の性能を有するシャッター及びドアの認定、登録等

- ・遮炎遮煙性能に関し国の認定を受けた構造方法(CAS)の使用承認を行う。
- ・連動機構・装置等の自主評定を一般社団法人日本火災報知機工業会及び日本防排煙工業会と共同で行う。
- ・防犯性能の高い建物部品の自主評定を警察庁等で組織する官民合同会議に参画して行う。

(2) シャッター及びドアの施工及び点検等に関する人材育成

- ・シャッター及びドアの保守点検を行う技術者育成のための講習会を開催し、保守点検を行う技術者の認定及び登録を行う。
- ・シャッター及びドアの施工に従事する技術者育成のための講習会を開催し、施工を行う技術者の認定及び登録を行う。

(3) 防火設備検査員講習における実技講習の実施

- ・一般財団法人日本建築防災協会より委託を受け、防火設備検査員講習における実技講習を実施する。

第二章 特別事業

1 シャッター及びドアのストック対策の推進

平成 26 年 5 月に建築基準法が改正され、昨年度はこれに関連した政令、省令が制定され、本年 6 月に法が施行される。

法の施行により、防火設備であるシャッター・ドアに関する検査を義務として行うことになったことに伴い、当協会としては、この制度が的確かつ円滑に実施されるよう引き続き協会をあげて協力していく。

また、検査の実施に関しては、機動的に対応できる体制を協会内に整える。

防火設備の検査資格者については、法の施行に先立って一般財団法人日本建築防災協会において事前講習が行われ、講習制度の一環である実技講習については当協会が委託を受け 3 月より実施しているが、当協会では本年度も引き続き実技講習を実施する。

製品安全普及事業については、建物管理者やユーザー向けの各種ツールを作成し、定期的な保守点検の必要性を訴え、点検が幅広く推進されるよう活動を行う。

また、適切な維持管理の推進とあわせて、危害防止機構や障害物感知装置未設置のシャッターの解消に積極的に取り組むものとする。

2 技能検定制度導入への取り組み

シャッター・ドア業界の地位向上を図る観点から、シャッター・ドアの施工者を対象に、国家資格である技能検定制度の導入を目指す。

このため、技能検定制度における職種の追加、及び当協会が指定試験機関となる上で必要となる事項等について検討し、その結果を踏まえて関係機関との調整に着手する。

第一章及び第二章の事業を推進するため、協会活動の基盤である会員の拡充を図るとともに、必要に応じ学識者、関連行政担当者、関係団体役職員の参加を求めて会員の協力による委員会を組織する。

また、各事業の進行管理及び日常の活動のために必要な事務局の体制を整備するとともに、その効率的な運用に努めるものとする。

平成28年度 常設委員会の活動テーマ紹介

今年度の常設委員会の主な活動計画を紹介します。

委員会名	主な活動計画テーマ
業務委員会 (鮫島 敏郎 委員長)	・シャッター・ドアの定期点検の普及及び点検法制化実施への対応 ・シャッター・OSD及びシャッター関連製品の市場及び用途の調査 ・元下請関係の契約適正化 ・社会保険加入促進対策の推進
総務委員会 (犬飼 民夫 委員長)	・法律の施行・改定内容に関する勉強会の実施 ・労働条件等に関する勉強会の実施 ・会報コーナー「総務委員会だより」の作成
工事委員会 (益岡 哲治 委員長)	・労働災害発生状況の調査 ・高速シートシャッターの施工基準及び電気施工基準の改訂 ・鋼製建具（引き戸）の施工基準の策定
講習委員会 (岡本 光永 委員長)	・防火シャッター・ドア保守点検専門技術者資格認定講習会の開催 ・シャッター・ドア施工専門技術者資格認定講習会の開催 ・各種資格認定委員会の可否を判定する認定委員会の開催
品質・安全委員会 (熊谷 恭司 委員長)	・事故情報の分析と提言 ・安全対策検討委員会の開催 ・他委員会からの依頼事項の検討 ・一般消費者、ユーザーに向けた安全普及活動の推進
メンテナンス委員会 (河西 文華 委員長)	・鋼製建具（開き戸・引き戸）、グリルシャッター、軽量シャッター、OHD、高速シートシャッターの点検基準の策定
連動機構・装置等自主評定専門委員会 (大館 一樹 委員長)	・連動機構・装置等の確認等申請審査 ・連動機構・装置等自主評定委員会への申請 ・煙・熱感知連動機構・装置等の設置及び維持に関する運用指針の改訂
企画広報委員会 (新子 雅之 委員長)	・会報の発行 ・ホームページの充実 ・メディア広報の実施 ・会員メリットの訴求
浸水防止用設備委員会 (鈴木 松三郎 委員長)	・浸水防止用設備技術基準の策定 ・関連法規の検討 ・関係機関との意見交換
シャッター技術委員会 (屋敷 善男 委員長)	・重量シャッターの技術基準の改訂 ・軽量シャッター、グリルシャッターの技術基準の策定 ・シャッター用リモコンスイッチの誤操作等による事故防止に関するガイドライン作成 ・防犯性能の高い建物部品に関する業務 ・高頻度シャッターの設置及び維持管理に関するガイドライン作成
オーバーヘッドドア技術委員会 (植竹 徹 委員長)	・安全装置基準の検討 ・耐風圧強度計算基準の見直し ・負圧強度試験案の作成 ・リモコン誤操作防止のガイドライン作成 ・防犯自主管理に関すること
ドア技術委員会 (黒川 貴光 委員長)	・鋼製建具、鋼製軽量建具の技術標準作成 ・鋼製引き戸、鋼製軽量引き戸の技術標準作成 ・耐環境性に関する研究 ・防犯性能の高い建物部品（ドアB種）に関すること
耐火クロススクリーン専門委員会 (図子 正志 委員長)	・耐火クロススクリーン技術基準の改定検討 ・耐火クロススクリーンの自主管理に関すること ・安全対策検討委員会における課題事項
高速シートシャッター専門委員会 (図子 正志 委員長)	・高速シートシャッターの安全に関するガイドラインの見直し ・高速シートシャッター技術基準の見直し ・省エネ効果の公開と啓蒙に関すること
窓シャッター専門委員会 (平林 英雄 委員長)	・防犯性能の高い建物部品（窓シャッター）の自主管理に関すること ・窓シャッター技術基準の策定及び施工基準の検討

少子高齢化社会に建築ができること



株式会社 INA 新建築研究所
専務取締役 設計監理本部長 粕谷 勝美

先日新聞報道に訪日外国人が2000万人（2015年度）を超えたとの記事があった。観光立国3000万人時代を見据え、通過点ながら早々に目標を超えたことは嬉しいことです。

少子高齢化時代到来が言われ久しいが収縮社会の中でも“活き活きた暮らし”には程よい経済活力が必要であり、国内外問わぬ交流人口の拡大が不可欠です。その為には地域の固有性を主張し、共感する方々の来訪機会を増やしていく事が求められています。持続的に相互の関係性を作る上で建築家職能の果たすべき役割を痛感しているところです。

建築は“単なるカッコ良さで無く”特に歴史、風土、自然など時間的厚みのある造込みが必要になっています。街として相乗的な環境をつくり、五感に訴求し、好奇心を喚起、リピーターに繋ぐことが望まれます。一過性でない交流には地域の方々から“我街を誇り”、“愛着”をもち、普段着の生活文化の中に“新たな発見や出会いを楽しむ場”が必要です。オープンなカフェ、小売店など伝統、食文化を交え商業的魅力のある街並環境をつくるのが大事です。更に、歩行空間に対し威圧感を排除し、ストレス無く分り

易い環境がそれを増幅させていきます。

1980年代後半に街の空洞化表現に『シャッター通り（街）』という言葉が生まれました。空洞化の原因には車社会到来、商環境変化、後継者不足など言われますが、建物フロントに面するシャッターが“拒絶感の象徴”とも写っているようです。防犯上の意図で設けていますが、この言葉は何とか払拭したいものです。社会課題に応える上から業界テーマとして取組んでは如何でしょうか？建物外観は社会性を持っています。社会と個との接点はファサードでありシャッターも大きな構成要素です。かつて、日本のどの家にも縁側があり緩やかに社会との関係性をつくっていました。形は異なっても現代版コミュニケーションツールとして復元したいものです。例えば、『街づくり商材の提案コンペ』『シャッター代替ツールの提案』『活性化の実例表彰』など、広く学生や一般の方々から提案を募るイベントも意義深いと思います。課題に係る小さなキッカケや出来事を積み重ねていくことが“活きた交流”に連なり“心地良い居場所”を育てます。何時しか負の表現が昔話になって行く事を願っています。

統計データ

■過去1年間出荷推移＜シャッター＞

(㎡、前年比・電動化率%)

	H27.6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H28.1月	2月	3月	4月	5月
重量シャッター	107,095	111,460	99,104	105,427	108,534	98,352	95,660	91,866	97,120	86,942	69,881	66,365
前年比	30.0	11.6	5.5	4.7	4.4	4.6	11.7	11.7	14.7	-5.0	-26.4	-26.1
軽量シャッター	194,739	193,540	157,935	193,247	224,696	196,520	184,681	140,106	159,030	180,755	181,704	181,551
前年比	8.5	0.2	-3.1	1.0	8.5	6.9	6.4	-1.0	5.7	2.9	-0.9	7.9
電動化率	27.1	28.0	27.5	25.6	25.9	26.1	27.8	27.4	29.0	28.1	26.4	25.4
グリルシャッター	3,211	3,460	2,241	3,308	4,134	4,234	3,970	3,934	3,875	3,921	3,019	2,829
前年比	-26.9	-9.0	-43.4	-15.8	4.7	-0.9	-4.7	10.3	-11.4	7.1	-8.7	6.7
オーバーヘッドドア	20,786	25,328	21,794	21,940	25,757	26,515	23,314	19,969	22,407	30,624	17,868	18,409
前年比	15.9	17.8	7.5	-0.5	17.9	17.2	8.3	-2.0	14.2	34.9	-1.5	14.9
合計	325,831	333,788	281,074	323,922	363,121	325,621	307,625	255,875	282,432	302,242	272,472	269,154
前年比	14.7	4.8	0.0	1.9	7.8	6.9	7.9	3.3	9.0	2.9	-9.1	-2.7

＜ドア＞

(枚、前年比%)

	H27.6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H28.1月	2月	3月	4月	5月
鋼製重量ドア	32,381	34,538	36,788	43,203	37,227	48,786	40,356	39,899	38,663	47,275	28,416	28,487
前年比	-10.1	-14.3	5.3	-6.5	-14.1	24.7	-8.9	4.8	-16.7	-15.8	-20.6	-8.4
鋼製軽量ドア	29,352	33,150	29,694	36,071	34,461	33,294	34,986	36,081	38,574	33,158	24,186	24,840
前年比	-8.7	-1.9	5.8	6.6	-14.3	-14.7	-15.1	-21.0	-15.7	-6.8	-8.4	5.5

注)・「鋼製重量ドア」は鋼製建具を、「鋼製軽量ドア」は鋼製軽量建具を指します。
・鋼製重量ドアは、ガスチャンパー、点検口を含みます。

「防火設備検査員に関する講習 実技講習」 全国で開催！

平成 28 年 6 月 1 日、建築基準法第 12 条に基づく防火設備検査報告制度が施行された。新たな制度では防火設備検査員の資格を有する者が検査を行うことになり、この制度に関わる「防火設備検査員に関する講習 学科講習」が、今年 1 月～ 2 月、（一財）日本建築防災協会の主催により全国で行われた。当協会の会員からも多数が受講した。

現在、この学科講習を修了（合格）した者を対象とした「防火設備検査員に関する講習 実技講習」を、当協会が（一財）日本建築防災協会から受託し、3 月 19 日から 7 月 22 日まで全国で開催している。

なお、当協会の防火シャッター・ドア保守点検専門技術者の資格で受講した者は、実技講習は免除されている。

実技講習の受講者は全国で約 5900 名を数え、講習会は札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、福岡の 7 ヶ所の会場で開催されている。実技講習は、午前、午後の 3 時間のプログラム（別掲）になっている。講師は会員各社からの選抜された 58 名があたっている。

実技講習の開催回数では延べ 112 回、日数では 56 日



▲スライドによる講習の様子

間となる。

これまで（6 月 20 日）に 8 割弱の 4890 名強が受講している。

協会にとっては、防火設備検査員という新たな資格者制度の幕開けに伴い、これまでに例のない大規模な実技講習に取り組み、歴史に残る事業をスタートさせた。



▲DVD による事前講習



▲受付風景



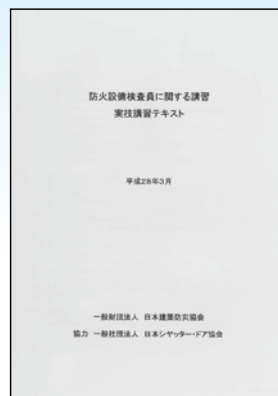
▲手動式防火シャッターの実技講習



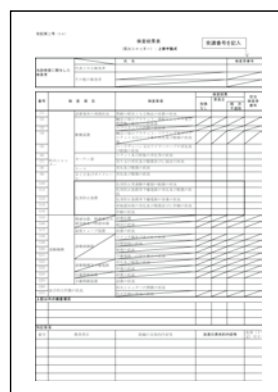
▲電動式防火シャッターの実技講習

■ 防火設備検査員に関する講習 実技講習 当日プログラム

No.	カリキュラム		時間	
1	受付			
2	オリエンテーション		5 分	
	・講習中の禁止事項と注意事項			
3	スライド講習 ・検査の流れ ・防火扉、耐火クロススクリーン、下部手動式の構造と検査		30 分	
4	実機講習事前説明 (DVD) ・上部電動式防火防煙シャッター		20 分	
5	【コース . I】	【コース . II】	【 I 】	【 II 】
	実機講習 ・上部電動式防火防煙 シャッター検査	DVD ・上部手動式防火シャッター	60 分	10 分
		実機講習 ・上部手動式防火シャッター		40 分
		耐火クロススクリーン体験		10 分
	DVD ・上部手動式防火シャッター	実機講習 ・上部電動式防火防煙 シャッター	10 分	60 分
	実機講習 ・上部手動式防火シャッター		40 分	
	耐火クロススクリーン体験		10 分	
6	終了・受講確認		5 分	
	講習時間		180 分 (3 時間)	



▲実技講習テキスト



▲検査結果報告書 (手動)



▲検査結果報告書 (電動)

実技講習の講師陣 (計 58 名)

三和シャッター工業

斎藤 裕喜雄
岡林 良恭
倉永 智晴
中内 勝也
新川 正則
石井 誠一
和泉 旭
宇田川 勝弘
高見 武士
石川 国一
秦 豊昭
小宮 弘毅
酒井 勇人
国富 恒志
甲メ 修一
田中 秀樹

桑原 規彰
白川 信幸
中島 文雄
小山 邦彦
関子 正志
草野 清治

文化シャッター

蕪木 重典
石井 純二
三橋 要
鬼頭 明裕
阿部 達也
小出 善一
武士 和之
田村 光広
堀内 重憲

大町 和彦
杉田 雅寿
松本 幹太
北川 孝夫
中村 哲夫
佐々木 賢一
山下 友則
中田 亮二
森下 充貴
河西 文華

東洋シャッター

本山 保志
山口 壽久
菅 圭司
井出 涉
屋敷 善男

諸留 充
渡邊 昌彦
石田 忠司
茨木 伸也
藤田 直人
榎倉 秀樹
武藤 靖久
神田 和行

LIXIL 鈴木シャッター

磯 康人
菊池 修
望月 守

小俣シャッター

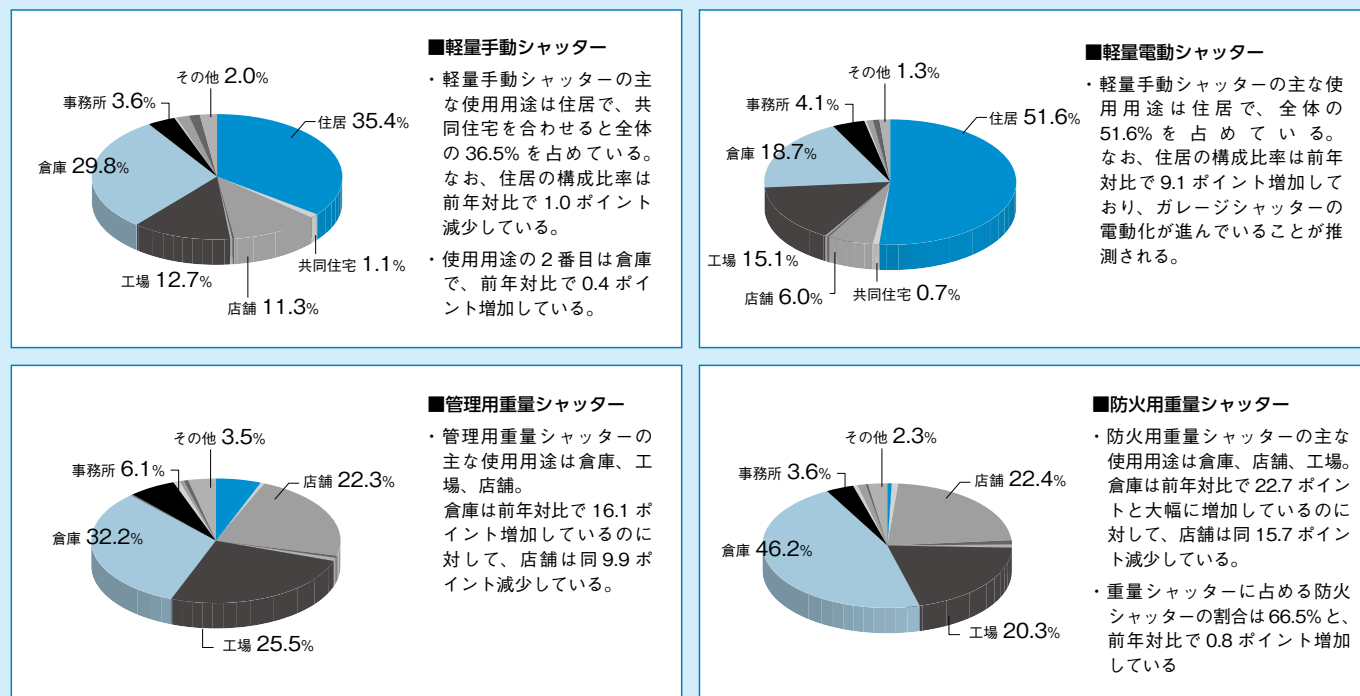
古川 素樹

シャッターの使用状況調査 2015

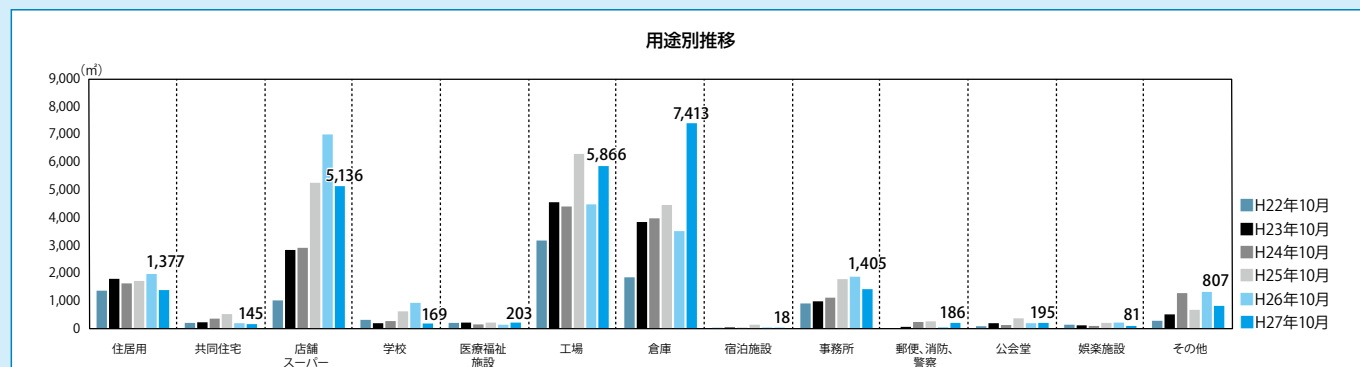
2010 年より毎年業務委員会で調査しているシャッターの使用状況調査について、2015 年分の一部を抜粋して紹介します。この調査は、年間を通じて平均的なデータを収集できる毎年 10 月の 1 ヶ月間の売上物件データをもとに、各種シャッターの建物用途別都道府県別の使用状況と年推移等をデータ化しています。

なお、調査概要については 13 ページ下を参照ください。

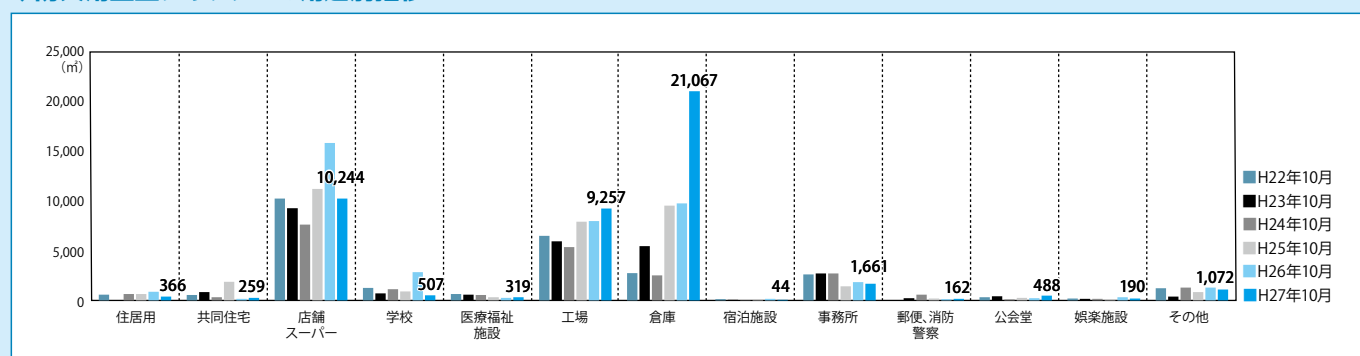
◆製品別用途別使用状況



◆管理用重量シャッターの用途別推移

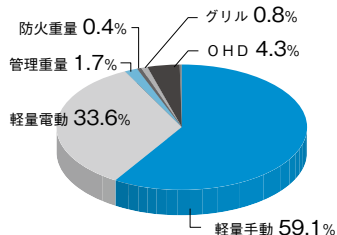


◆防火用重量シャッターの用途別推移



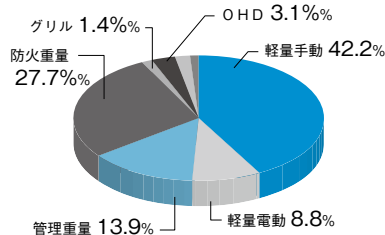
◆主な用途別使用製品状況 (H27.10)

■住居



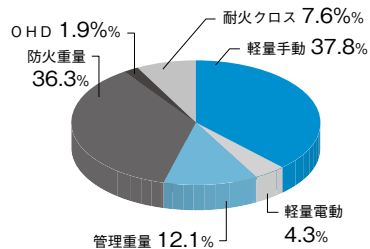
・住居に設置される製品は、手動と電動を合わせた軽量シャッターの合計で、全体の92.7を占めている。

■店舗



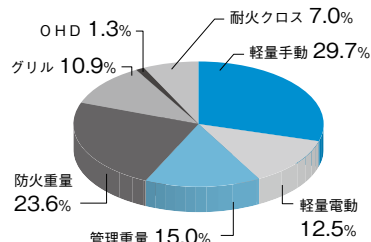
・店舗に設置される製品は、防火用重量シャッターと管理用重量シャッターを合わせた重量シャッターの合計で41.6%と、前年対比で9.4ポイント減少している。

■学校



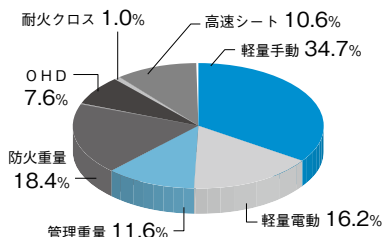
・学校に設置される製品は、重量シャッターと軽量シャッターの合計で、全体の90.5を占めている。
・また、耐火クロススクリーンの割合が、全用途の中で2番目に多い割合を示している。

■医療福祉施設



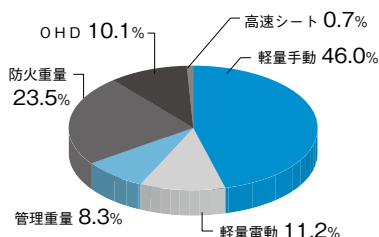
・医療福祉施設に設置される製品は、軽量手動シャッターの割合が一番多く、耐火クロススクリーンの割合が比較的高い割合を示している。

■工場



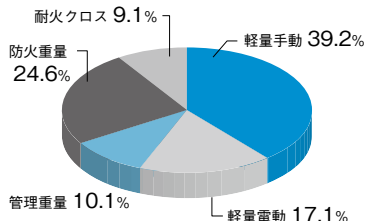
・工場に設置される製品は、軽量シャッターが50.9%、重量シャッターが30.0%を占めている。
・また、高速シートシャッターが10.6%と全用途の中で一番多い割合を示している。

■倉庫



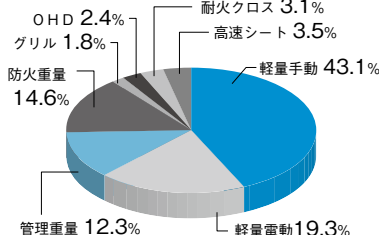
・倉庫に設置される重量シャッターは、前年対比で12.4ポイント増加しており、大型物流倉庫向けの需要増が前年に引き続いて増加傾向にあると予測される。

■宿泊施設



・宿泊施設に設置される製品は、軽量手動シャッターの割合が一番多いことを示している。
・また、全用途の中で耐火クロススクリーンの割合が一番多いことを示している。

■事務所



・事務所に設置される製品は、軽量シャッターの割合が62.4%を占めており、前年対比で10.8ポイント増加している。

調査概要

1. シャッターの種類：

軽量シャッター、軽量電動シャッター、管理用重量シャッター、防火用重量シャッター、グリルシャッター（軽量、重量）、オーバーヘッドドア、耐火クロスシャッター、高速シートシャッター

2. 集計単位：売上数量（㎡）

3. 建物用途区分：

①住居用、②共同住宅、③店舗・スーパー・百貨店、④学校、⑤医療・福祉施設、⑥工場、⑦倉庫、⑧宿泊施設（下宿、寄宿舎含む）、⑨事務所、⑩郵便局、消防署、警察署、駅舎、空港、⑪公会堂・集会所・博物館・美術館・研究所・寺院・教会、⑫娯楽施設（体育館、浴場、劇場、球場、映画館含む）、⑬その他

4. 調査地区：47都道府県

5. 調査期間：2015年10月（1ヶ月間）の売上物件

6. 調査協力企業：日本シャッター・ドア協会会員（10社）

新 会 員 紹 介

第二種会員として新たに 14 社、賛助会員として新たに 1 社の入会があり、5 月 24 日時点での会員数は 174 社となりました。

株式会社大牽金属（第二種会員） 代表取締役 宮近 孝昌 本 社 福岡県糟屋郡 設 立 平成 8 年 事 業 内 容 鋼製建具、ガラス工事、装飾金物、建物工事全般、止水板開発	ジョー・プリンス竹下株式会社（賛助会員） 代表取締役 高橋 修二 本 社 大阪府東大阪市 設 立 昭和 25 年 事 業 内 容 建築金物、鋼製建具の製造、販売
株式会社若生工業（第二種会員） 代表取締役 若生 正広 本 社 宮城県刈田郡 設 立 昭和 52 年 事 業 内 容 鋼製建具製造	林工業株式会社（第二種会員） 代表取締役 西明 啓 本 社 新潟県新潟市 設 立 昭和 48 年 事 業 内 容 鋼製建具製造
株式会社メタルスター工業（第二種会員） 代表取締役 星山 文徳 本 社 新潟県新潟市 設 立 平成 3 年 事 業 内 容 鋼製建具製造	三光総業株式会社（第二種会員） 代表取締役 佐藤 茂 本 社 宮城県岩沼市 設 立 昭和 49 年 事 業 内 容 鋼製建具製造
株式会社藤建鋼（第二種会員） 代表取締役 安藤 彰浩 本 社 岐阜県各務原市 設 立 昭和 56 年 事 業 内 容 鋼製建具製造	株式会社大東工業（第二種会員） 代表取締役 吉森 義治 本 社 福井県坂井市 設 立 昭和 60 年 事 業 内 容 スチールサッシ製造、販売
株式会社杉山商店（第二種会員） 代表取締役 杉山 正 本 社 岐阜県岐阜市 設 立 昭和 35 年 事 業 内 容 鋼製建具製造	御園サッシ工業株式会社（第二種会員） 代表取締役 大原 潤錫 本 社 兵庫県尼崎市 設 立 昭和 59 年 事 業 内 容 鋼製建具製造
株式会社大東工業（第二種会員） 代表取締役 吉森 義治 本 社 福井県坂井市 設 立 昭和 60 年 事 業 内 容 スチールサッシ製造、販売	原田建鉄工業株式会社（第二種会員） 代表取締役 阪本 清 本 社 大阪府四条畷市 設 立 昭和 45 年 事 業 内 容 鋼製建具製造
タイセーサッシ工業株式会社（第二種会員） 代表取締役 大石 剛士 本 社 静岡県榛原郡 設 立 昭和 63 年 事 業 内 容 鋼製建具製造	株式会社晃新鋳業（第二種会員） 代表取締役 山田 哲也 本 社 静岡県静岡市 設 立 昭和 49 年 事 業 内 容 鋼製建具製造
株式会社メカニック（第二種会員） 代表取締役 田中 博之 本 社 岐阜県不破郡 設 立 平成元年 事 業 内 容 鋼製建具製造	有限会社協和製作所（第二種会員） 代表取締役 中間 幸子 本 社 広島県庄原市 設 立 昭和 47 年 事 業 内 容 鋼製建具製造

新日鐵住金の高耐食性めっき鋼板

SuperDyma®

スーパーダイマ

JIS申請中!

環境に優しいクロメートフリー処理!!

「総合力世界No.1の鉄鋼メーカー」へ



新日鐵住金

薄板営業部

スーパーダイマの詳しいご案内は

スーパーダイマホームページ URL/

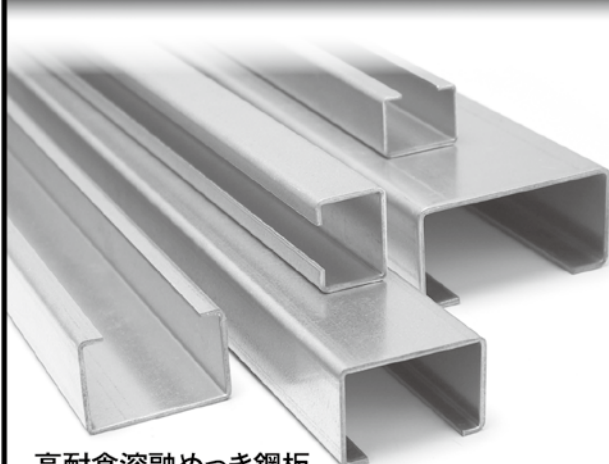
<http://www.nssmc.com/product/superdyma/>

お問い合わせ

E-mail

superdym@jp.nssmc.com

ZAM®はニーズに合わせ、 さまざまな形状がご提供できます。

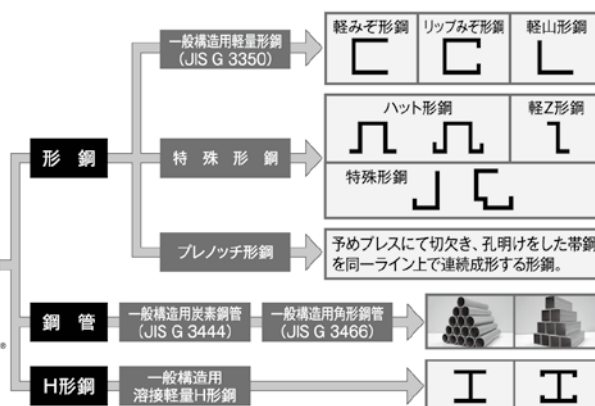


高耐食溶融めっき鋼板

ZAM®

※「ZAM」は、日新製鋼株式会社の登録商標です。

「ZAM」は、日新製鋼株式会社が開発した溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板の商品名です。



**3大
特長**

- ①コストダウン…高耐食性による長寿命化、後めっき代替が可能です。
- ②寿命が長い…耐食性が溶融亜鉛めっきに比べ、10~20倍優れています。
- ③環境にやさしい…長寿命で、少ないめっき付着量の省資源型商品です。

※平成24年11月に溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム合金めっき鋼板が、日本工業規格JIS G 3323として規格登録されました。

日新製鋼株式会社

●本社 〒100-8366 東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル TEL.03-3216-5166
●大阪支社 ●名古屋支社 ●中四国支社 ●北海道支店 ●東北支店 ●新潟支店 ●北陸支店 ●岡山支店 ●四国支店 ●九州支店

神奈川県・小田原

小田原といえば戦国武将の北条氏の拠点であった小田原城などが有名だが、海と山に囲まれた自然豊かなこの地は多くの見所がある。

小田原市早川にある小田原漁港では、毎週土曜に朝市が行なわれており、朝に水揚げされたばかりの鮮魚や地元の名産品などを目当てに多くの人々で賑わっている。また、市場内の食堂では新鮮な魚料理を味わうことができる。

早川は箱根や伊豆方面へのアクセスに便利な立地にあるため（箱根湯本まで車で10分）、箱根・伊豆方面への旅行の際にぜひ立ち寄ってはいかがだろうか。



（左）大改修を終え、今年5月よりリニューアルオープンした小田原城天守閣

（上）朝市の様子。朝6時頃には多くの人々が集まってくる



入場料無料で春から秋にかけて綺麗なバラが観賞できる小田原フラワーガーデン（漁港から車で20分ほど）



市場内の食堂をはじめとして漁港周辺には新鮮な魚料理を味わえるお店が多く立ち並ぶ

JSDA 会報 2016 年・初夏号

発行日:2016年7月 通巻第47号

発行者:一般社団法人 日本シャッター・ドア協会

〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-5-8 共和 15 番館ビル 2F

tel.03-3288-1281 (代) /fax.03-3288-1282

URL:<http://www.jsd-a.or.jp>